
蜃気楼を覗く海

ムネクニ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蜃気楼を覗く海

【Nコード】

N0676M

【作者名】

ムネクニ

【あらすじ】

砂漠を歩む二つの人影。彼らが向かう東京は、かつての姿を失って久しい。

裏側を領分とする尾美川グループが経営する尾美川学園に、夏、転入生がやってきた。

1 前説

砂を固く踏みしめながら、歩いていく人影がある。子豚ほどもあるうかというリユックに隠された狭い背中印象に反し、足取りは確かなものだった。

強風に煽られ、砂塵が舞い上がる。一定のリズムを刻んでいた歩みは止められ、フードの下から遙か遠くを見つめる姿がそこにはあった。

「あれが、東京なのか。」

「ああ。」

独り言めいた呟きに、いつの間に近づいたのか背の高い男が言葉を返す。

「ほら、行くぞ。」

男の言葉に導かれるように、二つの影は揺らめく地平線へと消えていった。

首都東京。かつて栄華を誇った都の面影はもはや遠い。しかし荒廃し、ならず者の巢窟となったこの地にも、置き去りにされたように学校がひとつだけ残っていた。

尾美川学園、通称オミガクと呼ばれて久しいこの場所は、東京に裏から根を張る尾美川グループの所有物だった。慈善活動、社会貢献と建前が並べられているが、その実が黒い金の浄化の為に、あることは誰もが知っている。言い訳はいわば、東京が世界都市東京であった時代の名残だった。

特殊な制度と義務が存在する以外は、教育組織として評価に値する場所である。それは業績不振や荒れようで、腹を探られる理由を与えないようにという対策であり、パフォーマンスであった。

裏で培ったノウハウを活かし、金にものを言わせて優秀な生徒の引き抜きを計る尾美川学園経営陣の手法は、稀有な成功を納めていた。

そしてある夏の二年三組は、こうした経緯を経てやってきたと噂される「優秀な」転入生の話で持ちきりになっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0676m/>

蜃気楼を覗く海

2010年10月8日23時31分発行